

活動名：第21回小野町NACカップU10
日 程：令和5年7月1日（土）・2日（日）
会 場：小野町町民グラウンド
参 加：「U10アーレA」E3（6名）・E4（4名）計10名
帯 同：設楽コーチ
 サポート：大森・貝和コーチ
結 果：フレンドリーリーグ
 （初日）
 VS 守山B VS 芳賀
 （二日目）
 VS 行健A VS 安積第三

報 告：設楽

この大会は、FC アーレを立ち上げて初めて小野 FC さんからお誘いを受け出場した歴史のある大会です。今回はU12とU10の両カテゴリーに参加しましたが、U10の4年生以下は2チーム招待を受け、大所帯のアーレとしては3年生も一緒に出場して経験できる機会となりました。

しかし、U10の部は「フレンドリー（練習試合）」という試合設定であったため、1日2試合15分ハーフのゲームを行い、他チームの同年代の子たちと触れあい、自分の今の技術レベルを感じ、保護者も様々なチームの様子や比較をアーレで出場したお子様の姿を客観的に見て様々なことを感じられる機会になったと思います。

指導者としても4年生年代の子たちは、これから「ゴールデンエイジ（即座に吸収できまねができる年代で急成長する時期）」の年齢になる入口であることから、それぞれの子たちの試合のプレーの様子や頑張る姿を見て、今後の指導の育成に繋げていく機会でしたが、

戦うスイッチが入って、相手に向かってプレーする子もいれば、積極的に立ち向かわず？立ち向かえず？逃げ腰の人任せにプレーする子など、様々な様子が窺えましたが、今はチームの勝敗の結果というよりも、6年生に向けてどのようにサッカーに向き合って行ってくれるのかを個性を見極め、とにかく一番はサッカーを楽しく続けていってくれるように配慮していきたいと思います。

保護者の方は自分の子の様子を見て、ストレスが溜めることが多々ありますが、子ども自身が「サッカーを上手になりたい」、「試合で活躍したい」、「親に褒めてもらいたい」などといった「気持ちの欲」があればあるほど、子ども自身でコーチに指導を求め、練習量も増えていくため、その欲のスイッチが入らないと、親が一生懸命に子に言い、背中を押しても、成長の変化が感じられないことは一般的なことです。

従ってプレーのことではなく、子どものスイッチを入れられるよう「欲」をたくさん持つように家庭では子に促してほしいと思います。

そうすることで、私たちの指導もやらされではなく、自分から求めてくるようになり、沢山のことを吸収でき、自然と6年生の時期にはサッカーを理解して、自らが積極的に仲間のために頑張るプレーする子になるでしょう。

そんなことから今回の大会では、U12に6年生以下のL100とT6クラスが出場し、

決勝まで進む素晴らしい戦いを見せてくれました。

身近にその戦いの様子を見られたことは少し刺激になったと思います。

U10の部に出場していた子の中には、U12の試合の様子を気にしていた子もいました。アーレのお兄ちゃんやお姉ちゃんたちが頑張っている姿を応援するとともに、ファミリーとして自分もその年代になったら活躍したいといった気持ちが芽生えてきていることを感じ、嬉しく思いました。また、アーレファミリーといった気持ちを持っていただくこととしても、保護者の方々には「アーレ応援タオルマフラー」を身に着けていただき、コートを囲んでいただいたことで、子どもたちへの応援を感じ嬉しく思いましたので、引き続きよろしくお願いいたします。また、保護者の方々には、会場のテント設営や片付けなどにご協力をいただきありがとうございました。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今月末も TOMITA 杯があります。こちらは U10 として 1 チーム出場のため、4 年生を主体として 3 年生のリフティング上位者を対象に出場します。自らが大会に向けて高いモチベーションを持って挑んでくれることを楽しみにまた頑張っていきますので、引き続き子どもたちの送迎と会場での応援をよろしくお願いいたします。

NAC カップの協賛企業「NAC」さま、小野 FC の関係者の方々、交流していただいた他チームの皆様、二日間ありがとうございました。

コーチ：設楽



